第24回組合員女性研修会

秋冷の心地よい季節、天候にも恵まれた10月31日～11月１日の２日間、全道各地から組合員のご婦人26名の参加（内６名の方が初参加）をいただき、『第24回組合員女性研修会』を開催いたしましたのでその概要を報告します。

【札幌プリンスホテル　ブッフェレストラン　ハプナ】札幌市

札幌駅集合後、まずは腹ごしらえ♪ということで、白い円柱形のタワーが目印の札幌プリンスホテルへと向かいました。今年のランチは、第22回の研修会でも訪れ、とても好評だった『ブッフェレストラン　ハプナ』です。

今回は火曜・木曜日限定のバリューアップランチブッフェを堪能！　最近、テレビ番組『Sma STATION!!』でも取り上げられ、話題となっている1.5ｍのなが～いフルーツロールケーキを５人のシェフで作っているときは今か今かと待ち構えたお客様で長蛇の列が出来ていました。また、ローストビーフや、しゃぶしゃぶ、旬の食材をシェフが目の前で揚げてくれる天ぷらなどがあり、全種類は食べきれない位の豊富な料理で、皆さんお皿いっぱいに盛り、十分に堪能した様子でした。

【農業生産法人㈲神内ファーム21 】浦臼町

農業生産法人㈲神内ファーム21は、大手消費者金融会社「プロミス」の創業者である神内良一氏が農業への熱き想いから、会長引退を機に農業への貢献を新たな目標として私財を投じ、1997年に設立しました。2005年には新しい農業ビジネスの実践、普及を図るため、「神内ファーム夢現塾（むげんじゅく）」を設立し、農業に本気で取り組み独立開業を目指す老若男女を募って、それらの人々を全力で支援しています。

国道275号線にある看板を頼りに丘を登るように入っていくと、広大な敷地と立派な施設が視界に飛び込んできます。今回、案内をして頂いたのは専務取締役の古河和幸さんで、まずは会議室にて神内ファームを設立した経緯や果物栽培・畜産事業について丁寧に説明していただいたのち、バスで敷地内の主要施設を巡る約２時間の視察となりました。

最初に案内していただいたのは、11月に出荷予定の褐毛和種の肥育牛舎で、真ん中に広い通路と飼槽を挟んで独房がずらりとあり、ストレス解消で背を掻く為のタイヤが一区画ごとに下げられています。

浦臼町の農場では、現在約840頭を10棟の牛舎で飼育しています。出生後１・２ヶ月の頃、焼き鏝で除角し、夏場は親子で放牧。生後３～４ヵ月

で離乳させ、去勢は６～７ヵ月。サイレージは18～24ヵ月給与します。サイレージ給与を長い期間行うのは、肉に鉄分を多く含ませるためです。牛舎内には１頭の種雄牛もおり、九州から導入しています。

続いては冬マンゴーを栽培中のハウスの中へ。寒い北海道で南国の果物を作るということで温度設定が徹底されています。鉢植えで生産されるマンゴーは葉果比で作る個数を決め、たくさんの花の中から、葉よりも上に芽が付いたものが選定されます。マンゴーには一つ一つネットをしているのですが、これは食べごろになるといい匂いを放ち、枝から落ちるのでその落下防止のためです。また、北海道の気象条件により、栽培期間が通常の120日より10日長く、この期間が糖度を急増しておいしくするため、『奇跡の10日間』と呼ばれています。

最後は、南国果実のハウスを見学。

パッションフルーツ、パイナップル、スターフルーツ、ドラゴンフルーツ、バナナ、パパイヤと普段あまり目にすることのないフルーツを含め、ハウス栽培ならではの果物が実っています。

施設ごとの担当者から丁寧な説明を受け、参加者の皆様はたくさんの質問をされ、熱心で充実した視察研修となりました。

【ホテルパコジュニアススキノ】札幌市

今回の宿泊先は、すすきの繁華街がすぐそばにある『ホテルパコジュニアススキノ』。このホテルは2012年２月にリニューアルオープンし、良質な天然温泉はお墨付き♪日替わりメニューで元気を追求した充実の朝食バイキングも大人気のホテルです。

夕食懇親会は、すすきの交差点近くにある『隠れ家ダイニング夢や京恋しずく』にて開催しました。扉を開けるとそこは雅な雰囲気で、店内へと続く赤い鳥居と石畳が別世界へと誘ってくれます。いろいろな料理を堪能しながら、中盤には今回初の試みとなるプレゼント交換や恒例のビンゴ大会を開催し、終始笑い声の響く懇親会となりました。

あっという間の二日間でしたが、この研修会が新たな出会いの場となり、かつ今後の酪農業をおおいに盛り上げていただく力になればと思います。

皆様にご協力いただいたアンケートを基に、今後の研修をより良いものにいたしますので、次回のご参加を心よりお待ち申し上げております。

また、この記事で興味をお持ちいただいた方も是非お気軽にご参加ください。

最後になりましたが、この研修会の取りまとめにご協力頂きました各地区協議会長様はじめ関係者の方々に深くお礼申し上げます。

（総務部　笹谷）